

# ストック効果① 九州南北軸の物流を支援

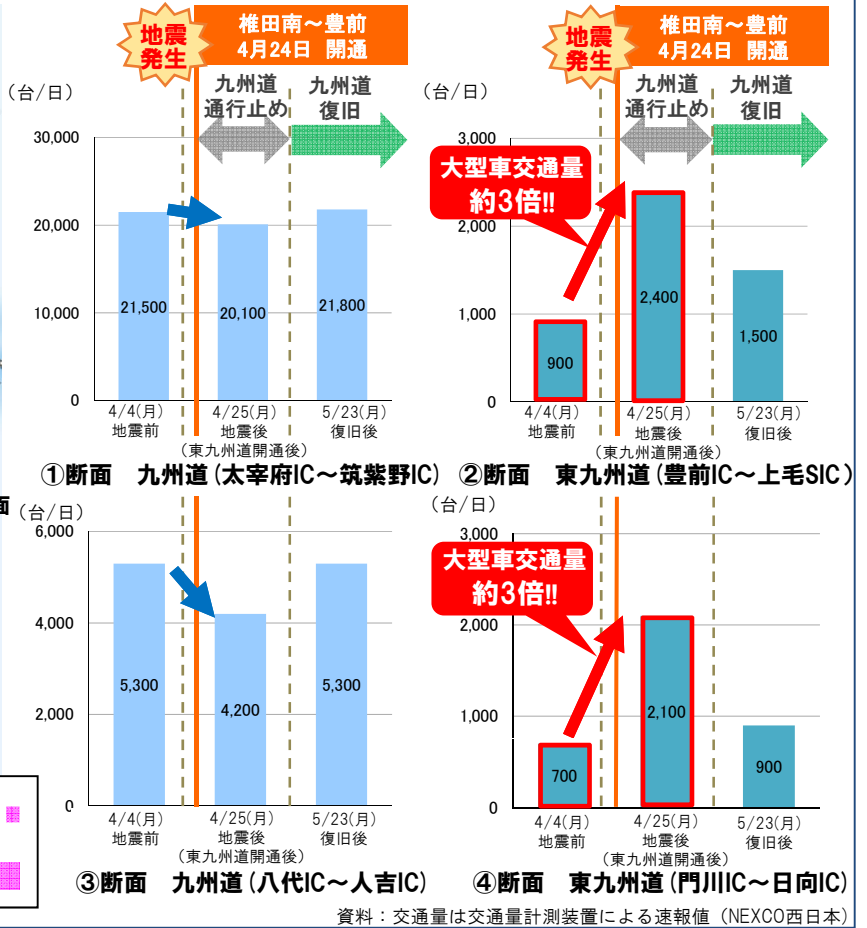


- ・地震発生後、大型車が九州道から東九州道へ転換し、大型車交通量が約3倍に増加。
- ・九州南北軸を支える物流経路として、東九州道がリダンダンシー機能を発揮。
- ・東九州道の早期通行確保により、安定的な飼料の確保や食物出荷に貢献。

## 熊本地震前後の物流経路

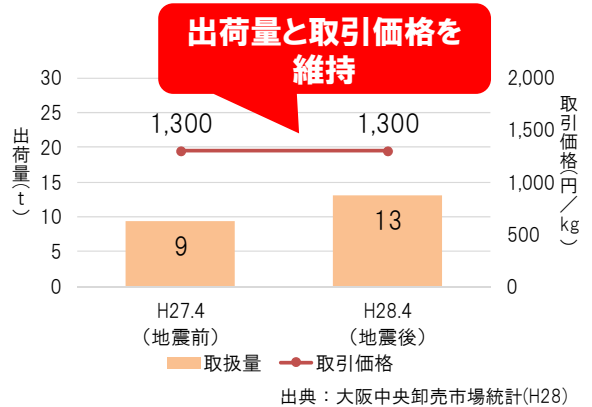
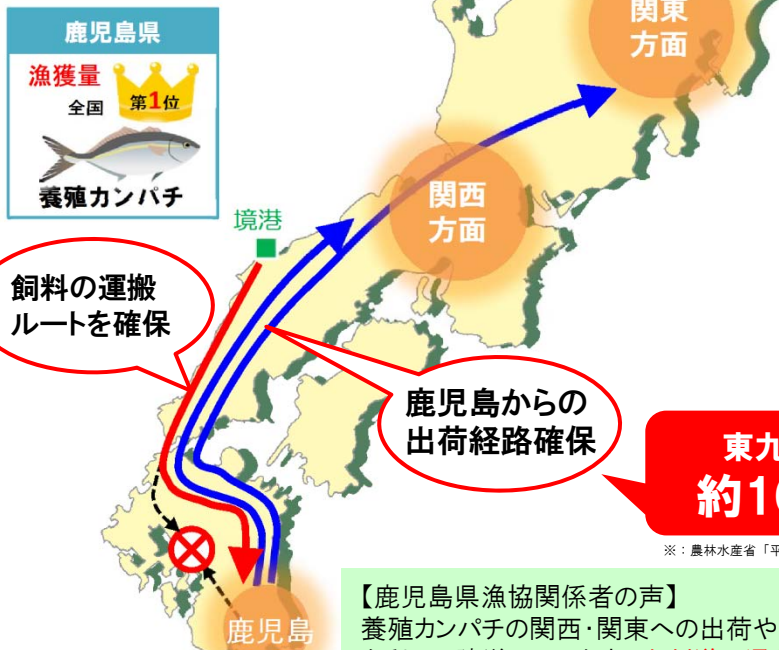


## 熊本地震前後の大型車交通量



## 安定した出荷等に貢献した例 (養殖カンパチの飼料確保と出荷経路)

## 地震前後の鹿児島産養殖カンパチ出荷量と取引価格(月別)



### 【鹿児島県漁協関係者の声】

養殖カンパチの関西・関東への出荷や県外からの養殖用飼料は、九州道を利用し陸送しています。九州道の通行止め時は、東九州道を利用しました。代替ルートが確保されたおかげで安定した出荷と養殖体制の維持できました。ルートの選択肢が増えたことで非常に助かりました。



※：農林水産省「平成26年度食料需給表」1人1日あたりの魚介類消費量135.3g/人・日より換算

# ストック効果① 広域な救援・復旧活動を支援



- ・東九州道を利用し、自衛隊が阿蘇方面への広域的な支援を展開。
- ・大分方面への救援物資輸送に東九州道を利用。
- ・東九州道と大分道を利用し、確実な物資供給を実施。

## ■東九州道を利用した災害派遣車両

4/14～5/30の間で約4,200台

NEXCO西日本調べ

## ■自衛隊の災害支援活動状況



▲東九州道 椎田南IC～豊前ICを走行する災害派遣車両

【陸上自衛隊 第4師団】  
 高速道路は信号機等もないため、いち早く現地  
 に到着し、任務を全うできます。  
 震災の影響で九州自動車道が渋滞してい  
 ましたが、**東九州自動車道を利用し、迅速な  
 支援ができました。**



## ■熊本地震発生時の阿蘇方面への支援ルート



## ■日本赤十字社が利用した輸送経路



### 広島県支部

毛布や安眠セットなどの救援物資輸  
 送において、余震による新たな通行  
 止めリスクを回避するため  
 『大分道回り』と『東九州道回り』  
 の2つの輸送経路を利用。

4/14に前震(M6.5)、4/16に本震(M7.3)が発生  
 輸送した4/17までで約2千回の余震が発生

### 大分県支部



## 【日本赤十字社 広島県支部】

大分県支部からの要請を受け、広島から大分まで陸送で物資を輸送しました。  
 余震も続き、交通状況が読めない中、**余震による新たな通行止めによるリスクを回避するため、2つの経路  
 を利用して確実な救援物資の輸送を実施しました。**

